

島根県

コミュニケーションボランティア養成でALS患者を支援

島根県は今年度、意思疎通が困難なALS患者のコミュニケーションを支援しようと、コミュニケーションボランティアの養成を事業化しました。9月に研修、11月17日には初めての講習会が松江医療センターで開かれ、4人が参加しました。

全国的にもあまり例がない取り組みのようで、とりわけ症状が進行した入院患者のQOL（生活の質）が向上するのではと、期待が高まります。



松江医療センターでの実習

1. コミュニケーションボランティア養成のきっかけ

昨年度、県は一時入院支援事業を利用された患者さん・ご家族の方15名及び11の受け入れ医療機関の病棟看護師さんへ調査をしたところ、会話が可能な患者さんはわずか2名で意思疎通が図りにくい方が多く、患者さんからは、「自分のしてほしいことがなかなか伝わらなかった」という声や、看護師さんからも「コミュニケーションがとれない方には対応に時間がかかり、難しい」「本人の状況を伝えるボランティアでもいるとよい」という意見がでたとのことでした。それについて難病医療連絡協議会で報告したところ、県で是非コミュニケーションボランティアを養成してほしいとの声が上がりました。

2. 研修内容

- ① ALSという病気について理解してもらう
- ② 会話ができない場合のコミュニケーションを図る様々な方法の紹介と体験
- ③ コミュニケーションボランティアのイメージを持ってもらうため、実際にALS患者さんのボランティアをしていた学生さんの体験を聞く
- ④ 当事者であるALS患者からコミュニケーションボランティアの必要性についての意見を述べてもらう

3. 受講者

16名

内訳

大学生（島根大学、島根県立大学）8名、
大学職員2名、保健師OB1名、一般3名（無
職・教員）、雲南難病ボランティア2名。

年齢

20代、40代～60代



4. 活動地域

受講生の住所は松江地域が7名、雲南地域が2名、出雲地域が7名。
ボランティアとして活動していただけるかどうかは今後の展開による。

5. 今後の構想

今年度は試行的な取り組み。来年度は講座を広げ、県内各圏域にボランティア
を養成する計画。

なお、浜田保健所も今年度、独自にボランティア養成の取り組みを始めている。

（文責：日本ALS協会島根県支部 谷田人司）

2010, 12, 20